

司書合格体験記

政策学部政策学科 小野寺 くるみ

私はこの度、神戸市より司書として内定をいただきました。私が司書を目指すようになったのは、3回生の秋ごろです。もともと子どもや絵本に関心があったこともあり、3回生の春学期に受講した児童サービス論で司書に惹かれ、秋に行かせていただいた図書館実習を通して本格的に司書を目指そうと思いました。ここでは、私が司書を目指してから内定をいただくまでの過程を報告します。

教養試験については『公務員試験 過去問 新クイックマスター』を使って勉強しました。勉強を始めた時期が遅かったこともあり、苦手な科目や出題頻度が低い科目には思い切って手をつけず、代わりに数的処理や判断推理はテキストを何周も解くようにしました。社会科学は上記のものに加えて『公務員試験 速攻の時事』も活用しました。時事に関する知識は、論文試験で行政について問われた際にも役立ちました。教養試験は試験の感覚を掴むためにも、予備校などで模試を受けてみると良いと思います。

専門試験については、12月頃から『図書館職員採用試験対策問題集 司書もん』で勉強を始めました。図書館学についてはほぼゼロからのスタートだったため、いきなり問題を解くのではなく、司書もんの全問題を図書館史・児童サービス・技術系…といったように分類し、テーマごとに解説をルーズリーフにまとめました。分からないところは授業で使った教科書やレジュメも活用しました。また、重要なところは赤ペンで穴埋め式にすることで、赤下敷きで隠して何度も解けるようにしました。司書もんは解説が非常に充実しているので、解説を丸暗記するぐらいの気持ちで良いと思います。

また、4回生の4月からは先生に紹介していただいた DUALIS に入り（DUALIS 自体の活動には全然参加できませんでしたが…）、そこで出会った司書を志す4回生数人と週に一回、勉強会を開いていました。それぞれ得意分野があるのでとても勉強になりましたし、何より、それまで周囲に司書を目指す人が全くいなかった私にとって、一緒に勉強できる仲間がいることはとても心強かったです。もしこの体験記を読みながら「司書になりたいけれどどうしたらいいか分からない…」と悩んでいる人がいたら、是非 DUALIS へ足を運んでみてください。

面接については、事前準備と場慣れだと思います。私は面接でとても緊張してしまうので、あらかじめ質問と回答を考えて覚えていました。初めは覚えたままを答えることで精一杯でしたが、民間企業の就職活動を並行して行っていたこともあり、回数を重ねるうちに自分の気持ちを自分の言葉で伝えられるようになりました。あとは、カレントや自治体のホームページに目を通し、様々な情報を持つておくことが大切であると感じました。

以上が私の体験記です。これから司書を目指される方にとって、この体験記が少しでも参考になれば幸いです。末筆ながら、ご指導いただきました先生方や司書を目指すきっかけをくださった実習館の皆様、お世話になった方々に深くお礼申し上げます。

文学部国文学科卒 小 柳 直 士

私はこの度埼玉県免許資格職員採用試験（司書）に合格し、埼玉県教育委員会職員として内定をいただきました。4月からは、県立図書館もしくは県立高校の司書として勤務することになります。2018年3月に大学を卒業してからは、株式会社甲南学園サービスセンターの契約社員として甲南大学図書館で働いていました。このこともふまえて、合格体験記を書きたいと

思います。

私が司書になろうと思ったのは、小学生のときでした。地元の図書館で自由研究についての本を探していたのですが、自分ではうまく見つけられず、図書館の人に「自由研究についての本はありませんか」と尋ねました。すると図書館の人は、自由研究の本がたくさんある棚の前まで案内してくれて、いくつかの本を開きながら紹介してくれました。自分が読みたいと思っていた内容が書いてある本を何冊も紹介してくれたことに感動し、大きくなったら司書になろうと思いました。

ここからは、受験戦略、勉強方法、論文対策、面接対策について具体的に書いていきます。

○受験戦略

司書の採用試験を受けるにあたってまず決めたのは、募集があれば全国どこでも受験するということでした。私にとっては、特定の地域で働くことよりも正規司書として働くことのほうが重要でした。採用人数も受験先を決めるときの重要な要素でした。地元で2人の募集があったとしても、遠方で3人以上の募集があれば迷わず遠方の自治体を受験しました。昨年度は11ヶ所、今年度は5ヶ所の自治体で採用試験を受験しました。参考までに受験した自治体の都道府県名をあげると、千葉、東京、埼玉、奈良、大阪、岡山、山口、福岡、大分、鹿児島となります。6月～11月ぐらいまでほぼ毎月試験をやっていたので、場所を選ばなければたくさん受験することができました。特に9月は毎週のように試験を受けました。

昨年度数多くの試験を受けたおかげで、自分が一番点数が取れる1次試験の試験形式がわかってきました。それは、教養試験+専門試験(司書)という形式です。専門試験で点数を稼いで教養試験の不足を補い、1次試験突破を目指しました。今年度は教養試験+専門試験(司書)が行われる自治体に絞って受験しました。独学で勉強していたため、勉強方法は常に模索していました。

○勉強方法 教養試験編

教養試験は、50問中30問(6割)正解することを目指しました。一般知識問題(25問)で7割以上(=18問以上)、文章理解(9問)は全問、数的処理(16問)は3問以上正解するための勉強をしました。

一般知識問題は、最初に『スーパー過去問ゼミ』シリーズの問題の選択肢を正文化しました。そうして出題範囲や問われるポイントを把握し、暗記すべきことを絞り込みました。あとは『新・光速マスター』シリーズを読み込み、知識の定着をはかりました。わかりにくいところは、センター試験の参考書なども読みました。知識の定着にはかなりの時間をかけました。知識があれば、どんな選択肢でも正誤を判断できます。問題を解くだけで満足して知識を身につけようとせず、その結果選択肢が切れない、こういうことだけは避けようと思いました。

文章理解は大学受験のときの貯金があったので、特に勉強しなくても満点近く取ることができました。

数的処理は、『解法の玉手箱』シリーズで基本的な解き方を理解しました。本番では16問中3～5問正解できればいいと思っていたので、それほど重点的に対策はしませんでした。ただ本番で時間があれば1問でも多く正解しようとしてましたし、時間をかければ解ける問題は全力で取り組みました。

教養試験は、自分の得意分野の問題をどれだけ確実に得点できるかにかかっていると思います。

○勉強方法 専門試験編

専門試験(司書)は、択一式で40問中32問(8割)以上正解することを目指しました。私にとっては1次試験突破のための生命線だったので、教養試験の倍の時間をかけて勉強しました。

まず後藤敏行『司書もん』全3巻を買い、赤ペンで答えを問題のすぐ下に写しました。もちろん答えを写すときに解説も全部読みました。答えを写したのは、『司書もん』を問題集ではなく読み物にするためでした。書き込みをせずにきれいな状態の問題集として残しておくよりは、答えをすべて書き込んで読み物にしてしまった方が知識を定着させやすいと考えたのです。その後『司書もん』は折に触れて読み返しました。

『司書もん』で専門試験の概要を理解したあとは、ネットに繋がっている司書の専門試験の問題をできる限り収集して解きました。「司書 過去問」で検索するといろいろ出てきます。過去問を解く目的は、どの分野からどのように出題されるのかを把握するためでした。

過去問を解いて出題範囲などを把握したら、あとは本番で正解するために知識を詰め込みました。今まど子・小山憲司編著『図書館情報学基礎資料』で関係法令や図書館に関する宣言・綱領を覚え、『図書館情報学用語辞典 第4版』で用語の意味を確認し、樹村房の現代図書館情報学シリーズで図書館サービスの基礎的な内容を復習しました。大学の講義で配られたレジュームも流れを理解するために活用しました。

○論文対策

論文対策は、まず最初に石井秀明『2019年度版 絶対決める！実戦添削例から学ぶ 公務員試験 論文・作文』を読んで、論文をどのように書けばよいのかを理解しました。公務員試験で出題される論文・作文は、レポートとは書き方が異なります。大学でレポートをたくさん書いてきた人も、公務員試験用の論文・作文の本を1冊読んでおいたほうが良いと思います。

次に司書の試験区分で論文試験の問題が公開されている自治体を探し、論題を確認しました。一般行政職でも出題されるような論題と図書館に関する論題のどちらにも対応できるように、自分ならどのように書くのかを考えました。

図書館に関する情報は、カレントアウェアネス・ポータルを見たり、本や雑誌を読んだりして集めました。問題を見たときに、知識がなかったので書けなかったということがないよう、情報収集は意識して行いました。

○面接対策 図書館研究編

免許資格職（司書）の受験者にとって、図書館研究は自治体研究と同義である。このような認識をもって、受験する自治体の図書館について調べました。

まず最初に図書館のホームページを見ました。利用案内やフロアマップ、OPACなどから基本的な情報を仕入れました。基本的なことがわかったら、次はその図書館についてより深く知るために要覧を見ました。要覧を見ると、その図書館が力を入れているサービスや図書館の歴史、蔵書冊数、実施したイベントなどを知ることができました。

要覧を見て、統計などのデータは頭に入った。ではこれらをふまえて、図書館はどのように運営されているのだろう。そう思ったときに見たのが、図書館協議会の会議録でした。会議録を読むと、要覧のデータを資料として図書館の課題などが話し合われていることがわかりました。要覧には載っていないような細かい話も読むことができ、図書館について理解するのにとても役立ちました。あとはレファレンス協同データベースに参加していればその図書館の事例を見たり、デジタルアーカイブを構築していれば使ってみたりもしました。

机上でできる調査が終わったら、実際に受験する自治体の図書館に行ってみました。これは面接を受けた経験から言うのですが、受験する自治体の図書館に行くときの出費は惜しまないほうが良いと思います。実際に図書館に行ったから面接で話せたこともありましたが、面接官から「遠方に住んでいらっしゃるから、まさかうちの図書館に行っているとは思わなかった」と言われ、行ったこと自体がアピールにもつながりました。

図書館を見てまわるときは、利用者目線で思ったことなどを記録していきました。具体的には、よいところ、悪いところ、図書館の雰囲気、書架の状態、職員の対応、利用者の様子など

を見ていました。自分がここで働いている姿もイメージしました。面接で図書館について話しているときに図書館の様子が鮮明に思い浮かび、スムーズに話すことができました。

○面接対策 志望動機編

面接で本音を言うわけにもいかないので、志望動機は時間をかけて考えました。受験する自治体の図書館の要覧を見て重視しているサービスを確認し、「こういうサービスを重視しているから志望した」という形式にしました。あとはその図書館に興味をもったきっかけや、図書館について調べてみてわかったことを述べ、最後にこの図書館で働きたいということを強調しました。

興味をもち→きちんと調べて→ここを受験しようと思った、という流れが面接官に伝わるように意識しました。志望動機は、受験する自治体の図書館について自分がどれだけ知っているのかをアピールすることが重要だと思います。

以上が合格体験記となります。私は4回生のときには正規採用に至らず、今年度図書館で働きながら採用試験を受けるという選択をしました。今年度も諦めずに試験を受けようと思ったのは、「司書合格体験記」を読んで多くの先輩方が正規司書としてご活躍されていることを知っていたからです。人生に無駄な時間はありません。1年間図書館で働いてみて、強くそう思いました。この合格体験記がこれから正規司書を目指すみなさんにとって、少しでも参考になればうれしいです。

文学部国文学科 森 亮 子

子供の頃から図書館司書を夢見て、大学に進学しました。入学直後の免許資格説明会において、「資格は取れたとしても、実際になれるかは別」だと先生がおっしゃった時、これまでの夢が現実的なものに思えたことを覚えています。その現実を知っても、図書館司書になることを諦められませんでした。だから今の私があるのですが、就職活動が始まってすぐは気持ちが落ち込みがちでした。最悪は、最後まで粘って、本当にどうにもならなかったら契約職員から始めようと覚悟していたほどです。最悪契約社員でもいいという逃げ道がないとやっていたらいい気分でもありません。ですので、これから司書を目指す方には、心を強く持ってほしいなと思います。

○試験勉強について

- ・一般教養
3年生の秋から公務員講座を受講
- ・専門科目（図書館情報学）
週一回、有志で勉強会

公務員講座で一般科目を勉強しつつ、一般企業の就職活動もしつつ過ごしていました。後から考えれば、一般企業は見ずにもっと勉強すべきであったかとも思いました。しかし、面接の練習という意味では良い経験になりました。図書館情報学に関しては、週一回有志で採用に向けて勉強会を行っていました。一人で勉強するにも限度がありますし、つらくなることがあると思います。そんな時は、DUALISに同志を探しに行ってみてはいかがでしょうか。

○採用について

私は一般企業も図書館司書も受けられるだけは受けてみました。結果的に12月の初めに学校図書館への採用が決まりました。志望する図書館の採用時期によって異なりますが、卒業間際まで決まらない可能性もある職種だと思います。だからこそ、万一今回だめでも来年も受けれ

ばいいよと言ってもらえる環境をいかに整えるかも大事だったと今では思います。

8・9月が採用のピークであるように感じました。公共図書館は日程がかぶっているので、受けるにも数は限られます。第一志望が一番初めだと緊張もあるので、できればそれより先に練習ができると良いと思います。試験は一次・二次の場合もあれば、一次・二次・最終、と様々です。教養試験と専門試験が同日である場合に加えて、論文も同じ日に行うことがあり疲れも出ますので、体調管理には十分お気をつけ下さい。面接は集団・個人、様々です。両方あることが多かったように思います。

拙いですが、以上とさせていただきます。少しでも、お役に立てば幸いです。試験についての詳細などは、DUALIS に置いてある資料や前年度の合格体験記などもご参照ください。何より、まずは受験先の情報を調べると、何をすればよいか見当が立ちやすいのではないかと思います。

文学部美学芸術学科 山田 春 菜

このたび、国立国会図書館の一般職に内定を頂きました。その経緯を述べさせていただきますと思います。

図書館司書を目指そうと考えたのは、大学で司書課程の授業を履修したことがきっかけでした。司書の担う役割を知るうちに自分もこの世界に身を置きたいと考えるようになり、2年生の冬からDUALISの勉強会に参加するようになりました。

私は特に研究支援に興味があったため、大学図書館を志望の中心に据えて勉強を行いました。さらに勉強を進めるうちに、図書館業界全体の現状や課題に興味を持つようになり、より幅広い仕事を行っている国立国会図書館を志望するようになりました。

2018年度卒業生の就職活動は3月から解禁でしたが、私は一般企業を受けずに、図書館に絞って3年の夏ごろから勉強を続けていました。国立大学法人・国立国会図書館・各地の公共図書館を受験しましたが、その中でも内定を頂いた国立大学法人の図書区分と国立国会図書館について、受験勉強の経緯をここに記したいと思います。

国立大学法人は7月に事務職員と共通の一次試験（教養試験）があり、合格者に対して8月上旬に二次試験（専門試験と面接）が行われます。教養試験については、通信講座の参考書で基礎を固めたのち、市販の過去問題集を繰り返し解くようにしました。また模試なども利用し、自分の苦手分野を定期的に確認するようにしていました。教養試験についてはどの館種でもある程度共通した問題であり、また同じ学科で公務員を目指している友人とも情報共有ができたため、比較的安心して勉強を進められました。

一方の専門試験の勉強については、司書課程の授業を受ける上で利用した教科書やプリントなどが役に立ちました。図書区分の二次試験は毎年過去問題が公開されているので、数年分の過去問を解いて勉強しました。大学図書館に就職された先輩の合格体験記を参考にして、過去問を種類別に分類したノートを作り、そこに現在の動向や用語の意味などを書き込むようにしていました。二次試験の専門試験は一斉に行われますが、面接はそれぞれの大学で行われます。大学によっては二次試験前に機関訪問の機会があるため、その際にそれぞれの大学の雰囲気や特徴を知っておくことは、面接を受ける上でも重要なのではないかと思います。

国立国会図書館は一次試験の教養試験通過後、教科選択制の専門試験と全員共通の英語試験、個別面接が二次試験として行われ、さらに通過後には三次試験として個別面接が行われます。専門試験では図書館情報学を選択し、それに向けて勉強していました。国立国会図書館の専門試験も国立大学法人と同様に過去問が公開されていますが、すべて記述式のため、より深い勉強が必要となりました。図書館情報学用語辞典の説明を覚える、言葉の意味について人に説明できるようにする、といった勉強が役に立ちました。国立大学法人の専門試験と同様、もしくはそれ以上に最新の動向についての知識が必要とされますが、同時に公共図書館的な設問（児

童サービス、高齢者サービスなど)も存在します。私の場合は各館種を受験していたため、それぞれの勉強が包括的に国会図書館の専門試験に役立ったと感じています。

5月下旬から国立国会図書館の受験が始まり、7月上旬に国立大学法人の受験が始まりました。8月上旬には両方の結果が出され、国立国会図書館に補欠合格、国立大学法人神戸大学から内定を頂きました。その後2月中旬に国立国会図書館から繰り上げ合格の連絡があったため、神戸大学の内定を辞退させていただき、国立国会図書館の内定を頂きました。

図書館司書は募集も少なく、情報も限られているため、どのように勉強を続けてよいのかわからなくなることも多いかと思います。同志社大学の司書課程室はそんな時に抛り所となる場所でした。同じように司書を目指している友人や、アドバイスを下さる先生方、また先輩方の残したノートや体験記などは、勉強を続けていく上で大きな励みになると思います。私のこの体験記も、そのような励みの一助となれば幸いです。